

普及情報

～農業改革推進員の取り組み成果～

県南農林事務所 経営・普及部門
(土浦地域農業改良普及センター)
土浦合同庁舎第2分庁舎3F
土浦市真鍋5-17-26
電話(直通) 029(822)8517
(FAX) 029(822)7370

◇ナシの樹勢回復技術の実証(石岡市 友部敏英氏・飯村伸一氏)

①樹勢回復剪定技術

樹冠の適正化・主枝先端部の強化を図り、予備枝・側枝をこれまでより多く配置したせん定法の改善に取り組んでいます。樹勢は徐々に回復し、生産性も向上してきています。

実証ほの結果は、高温乾燥の気象条件にもかかわらず、果実肥大は良好で大玉率(2L以上率)は83.3%でした。

②株元マルチ

株元マルチは、堆肥やワラ等の有機物を株元に盛ってマルチをし、細根が発生しやすい環境をつくる技術です。株元マルチをすることにより、収量は500kg/10a程度増加しました。



株元マルチの様子

表 有機物株元マルチによる樹勢回復実証ほ結果

| | 着果数 | | 収量 (t/10a) | 果実糖度 (Brix%) |
|---------------------|-------|---------------------|---------------|-----------------|
| | (果/樹) | (果/m ²) | | |
| 株元マルチ区(堆肥 100 kg/樹) | 247 | 9.3 | 3.2 | 12.4 |
| 無処理区 | 217 | 7.7 | 2.7 | 12.2 |

◇ナシ新品種の試作検討(石岡市 森戸誉史氏・かすみがうら市 長谷川智子氏ほか)

県育成の新品種「早水(仮称)」、「恵水(仮称)」の現地試験を行っています。管内4か所で高接ぎと、苗木の新植を実施しました。今年は、いずれの園でも花芽が着生しており、収穫が見込まれます。

◇ブドウ「シャインマスカット」の高品質栽培技術実証(石岡市 久家政輝氏・田中忠男氏)

外観、食味とも良く、欧州系ブドウの主力品種として普及拡大が期待される「シャインマスカット」の高品質生産のための収穫適期について、検討を行いました。収穫の目安は、満開後110日、糖度18%以上ですが、今年は110日より早く目標糖度に達しました。このことは、高温乾燥の気象条件が大きく影響しているものと考えられます。収穫適期については、満開後日数だけでなく、糖度、果皮色、食味等について、総合的に判断することが必要だと思われました。



シャインマスカットの果実

表 シャインマスカット果実品質調査結果

| 満開後日数 | 房重 (g) | 粒数 | 一粒重 (g) | 糖度 (Brix%) | 果皮色 |
|-------|-----------|----|------------|---------------|-----|
| 100日 | 750 | 53 | 13.6 | 20.3 | 4.0 |
| 110日 | 796 | 62 | 12.9 | 23.0 | 5.5 |

◇環境に優しく大粒で美味しい特栽米コシヒカリ栽培技術実証（土浦市 宮下茂司氏）

環境に優しい米づくりの推進のため、JA土浦稲作部会では、減農薬・減化学肥料によるコシヒカリの特別栽培に取り組んでいます。特別栽培米の収量と高食味値の安定のため、可給態窒素診断と生育診断に基づく減肥栽培による、食味値 80 以上の特別栽培技術実証に取り組みました。

その結果、施肥窒素量の 75%削減、食味値 91、実収 510kg/10a を実証しました。さらに、いばらき高品質米生産運動の基本 5 技術を励行し、三段乾燥による籾水分率の均質化を図ることで、胴割粒の発生を抑制できました。

JA土浦稲作部会の特別栽培米コシヒカリは、1.9mm網目でふるった大粒のものを「プレミアムコシヒカリ」として、JAの直売所で販売しています。



現地検討会の様子（右から二人目が宮下さん）

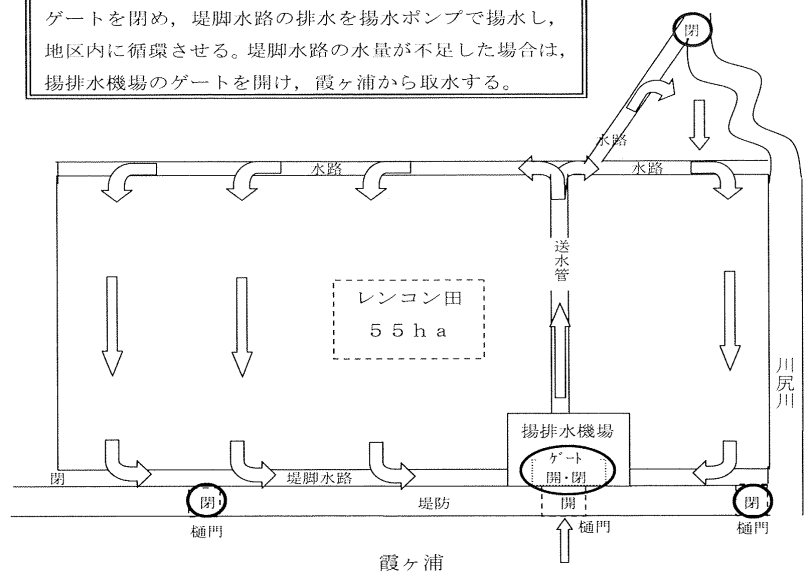
◇レンコンにおける循環かんがいシステムによる栽培技術実証（かずみがうら市 飯村恵子氏）

県では、霞ヶ浦の水質浄化を推進するため、既存の土地改良施設を活用し、農業排水を農業用水として循環させ霞ヶ浦への農業排水の流出を抑える「循環かんがいシステム」の構築を行っています。管内では、このシステムをかずみがうら市の戸崎土地改良区で試験的に導入しました。そこで、システム導入による農作物への影響を、女性農業士の飯村氏のほ場で、昨年からのレンコンの品質・収量調査を実施しています。

昨年は、循環区（6月～7月の1ヶ月間循環させた区）と慣行区との間に収量・品質に明確な差はありませんでした。

今年は、循環かんがい期間を昨年より延長し（4～8月の4ヶ月間）、慣行区と形状等の比較を行いました。その結果、循環区の形状は、親バスの節間がやや短く、太い結果となりましたが、姿掘りのレンコン1個の重さに、慣行区との間に、差はありませんでした。収量は調査中です。

揚排水機場の樋門開け、その他の樋門及び揚排水機場のゲートを閉め、堤脚水路の排水を揚水ポンプで揚水し、地区内に循環させる。堤脚水路の水量が不足した場合は、揚排水機場のゲートを開け、霞ヶ浦から取水する。



戸崎地区レンコン田における循環かんがい(晴天時)の模式図



茨城農業改革（平成15～22年）は、「消費者のベストパートナー」となる茨城農業の構築に向けて、「つくれば売れる」から「喜んで食べてもらえる」というものづくりへの意識改革です。当地域では、新たな買ってもらえるものづくりを推進するため、農業改革推進員（農業三士等）の皆様とともに、新品種の導入や新技術・新作型等による栽培などに取り組んでまいりました。その取り組みの一端を取り纏めましたので、経営改善等の参考にさせていただければと思います。

